

事業所名	放課後等デイサービスひまわり吉田校
------	-------------------

公表日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・分散活動を取り入れ、戸外・室内活動に分けることで、利用人数に応じたスペースの確保を行っている。 ・活動内容や子どもの特性に応じて場所を調整し、落ち着いて過ごせる環境づくりを心がけている。	・利用状況によっては、定員数に対して室内スペースの確保が難しい場面もある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・児童福祉法に基づいた職員数の配置をしている。 ・活動内容や子どもの特性に応じて職員配置を調整し、必要に応じて個別対応を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・イラストや写真などを活用し、子どもが視覚的に理解しやすい環境づくりを行っている。 ・1日の流れや活動内容をスケジュールとして掲示し、見通しを持って安心して過ごせるよう配慮している。	・室内の段差については、クッションマットや滑り止めマットを使用しているが、使用状況によってはずれやすい場合がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日、室内の清掃や消毒を行い、清潔な環境を保つよう努めている。 ・活動の目的が分かりやすくなるよう、場所ごとに役割を持たせた空間づくりを行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・体調不良や落ち着いて過ごしたい等の訴えがある子どもに対して、学習室を個別スペースとして使用できるようにし、安心して過ごせる環境を整えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・終礼を通して業務の振り返りを行い、職員の意見を業務改善に活かしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・評価結果やいただいた意見を社内で共有することで保護者の意向の把握、業務の改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・日々の振り返りやミーティングを通して職員の意見を把握し、業務や支援内容の見直しに活かしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・第三者による外部評価を行っていない。今後取り入れていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・毎月、ジョブモデルを活用した研修に取り組み、職員の知識や支援技術の向上を図っている。 ・自立支援協議会に出席し、子どもの特性や療育について学ぶ機会を設けている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・5領域に基づく支援プログラムを作成し、保護者や関係者が確認できるよう、ホームページ上に公表している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・子どもの特性や日々の様子についてアセスメントを行い、その結果を基に面談を実施し、子どもや保護者のニーズを踏まえた計画目標を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・カンファレンス等を通して情報共有を行い、支援の方向性について職員全員で共通理解を図っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・保護者から承認を得た支援計画について、職員全員が内容を確認し、計画に沿った支援を行っている。 ・昼礼時には、支援において配慮すべきポイントを共有したうえで、日々の支援に臨んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・個別支援計画を基にしたアセスメントと、日々の行動観察や記録を通して、子どもの適応行動の状況を継続的に把握している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・ガイドラインに沿って、子どもの状況やニーズに応じた支援項目を設定し、具体的な支援内容を計画に反映している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・職員間での情報共有を通して、子どもの状況を踏まえ、支援プログラムを決定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・子どもの興味関心や状況に応じて活動内容を組んでいる。 ・季節ごとの様々なイベントを企画している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・子どもの特性や状況に応じて、個別・集団活動を無理なく組み合わせ支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・朝礼・昼礼で情報共有と役割確認を行い、子どもの様子に応じて支援内容を柔軟に調整している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	○		・終礼でその日の支援を振り返り、気づきや困った案件を共有して、対応策を検討している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎回の利用後に個人記録を記入し、子どもの様子や反応を振り返り、支援の改善や次の計画に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・相談支援事業所と連携して定期的にモニタリングを実施し、保護者とも半年ごとに面談を行いながら、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・個々の状況に応じて「4つの基本活動」を組み合わせ、発達支援を行い、子どもが健全に成長できるよう支援している。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・子どもが活動や遊びの内容を自分で選べる機会を設け、意見や希望を尊重することで自己決定力の向上につなげている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達管理責任者が出席し、情報の共有を行なっている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて支援内容や対応方法を学校と調整し、一貫した支援が行えるよう努めている。 ・事故やけが、健康状態の急変に備え、近隣の協力医療機関と連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校お迎え時に先生と情報を共有し、子ども一人ひとりに応じた支援体制を整えている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・就学前に通っていた事業所と連携し、子どもの特性や支援状況について情報共有と相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			・今後、障害福祉サービス事業所等へ移行する際には、必要な支援内容の情報提供を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・地域の児童発達支援センターと定期的に連絡を取り合っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・児童館へ定期的に遊びに行き、地域の子どもたちと挨拶を交わしたり関わりを持つ機会を設けている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・児童発達管理責任者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・保護者アンケートやモニタリング、相談支援などを通じて、利用時の子どもの成長や課題について保護者と共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・家族側からの相談や要望があった際に助言や支援を行っている。	・仕事をしている家庭が多いため、難しい現状にある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に重要事項説明書を用いて必ず説明を行っている。 ・内容に変更があった場合は、速やかに保護者へ情報を伝えている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・支援計画は、保護者と児童発達支援管理責任者が面談し、子どもや家族の意向を必ず確認して作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・保護者の理解と同意を得た上で、計画に基づく支援を実施している。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・電話やお迎え時など随時、保護者からの相談に対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		・年2回保護者会を開催し、保護者も参加できる機会として、普段の活動の発表や親子でのゲームを楽しむ時間を設け、保護者同士が交流できる場としている。	・きょうだい同士の交流機会は今後の課題。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・重要事項説明書に窓口や対応体制を明記し、契約時に丁寧に説明している。 ・日頃から家庭と密に連携し、相談しやすい環境作りに努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・季節ごとに「ひまわり通信」を発行し、活動や行事の情報を提供している。 ・月に一度、Instagramを活用して活動の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報の取り扱い契約書に署名いただき、同意を得ている。 ・個人情報の取り扱いに関する規定を定め、適切に管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・支援中は、子どもの理解度や特性に応じて言葉遣いや絵カードなどを活用し、伝え方を工夫している。 ・送迎時に情報共有を行い、英語圏の保護者には通訳機能を使用して意思疎通を図っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			・地域に開かれた事業運営の機会は今後の課題である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各マニュアルを策定し、職員には周知済み。保護者には保護者会でマニュアルの内容と訓練の実施状況を報告し、周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・業務継続計画を策定し、定期的に避難訓練を実施して、緊急時に迅速かつ安全に対応できる体制を整えている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・利用前に服薬の有無など子どもの健康情報を確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・医師の指示はないが、保護者の指示に基づき対応している。 ・事前に食物アレルギーの有無などを聞き取り、アセスメントシートに記入して管理している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・AEDなどの救急訓練を実施し、事業所内の設備の安全点検も行っている。 ・事業所外での活動や送迎時も、安全に注意しながら支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・保護者会にて、緊急時や避難時の引き渡し方法について随時お知らせし、周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・事業所内でヒヤリハット事例を共有し、原因分析や対応策を随時検討している。 ・記録用紙に記入し、いつでも振り返りができるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・年に一度虐待防止研修を受講し、得た知識や対応方法を職員間で共有して日々の支援に反映している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・現在、身体拘束を必要とする児童はいない。 ・対象児童が発生した場合には、身体拘束を行う条件を定め、事前に保護者に説明して了承を得た上で、支援計画に記載していく。		